

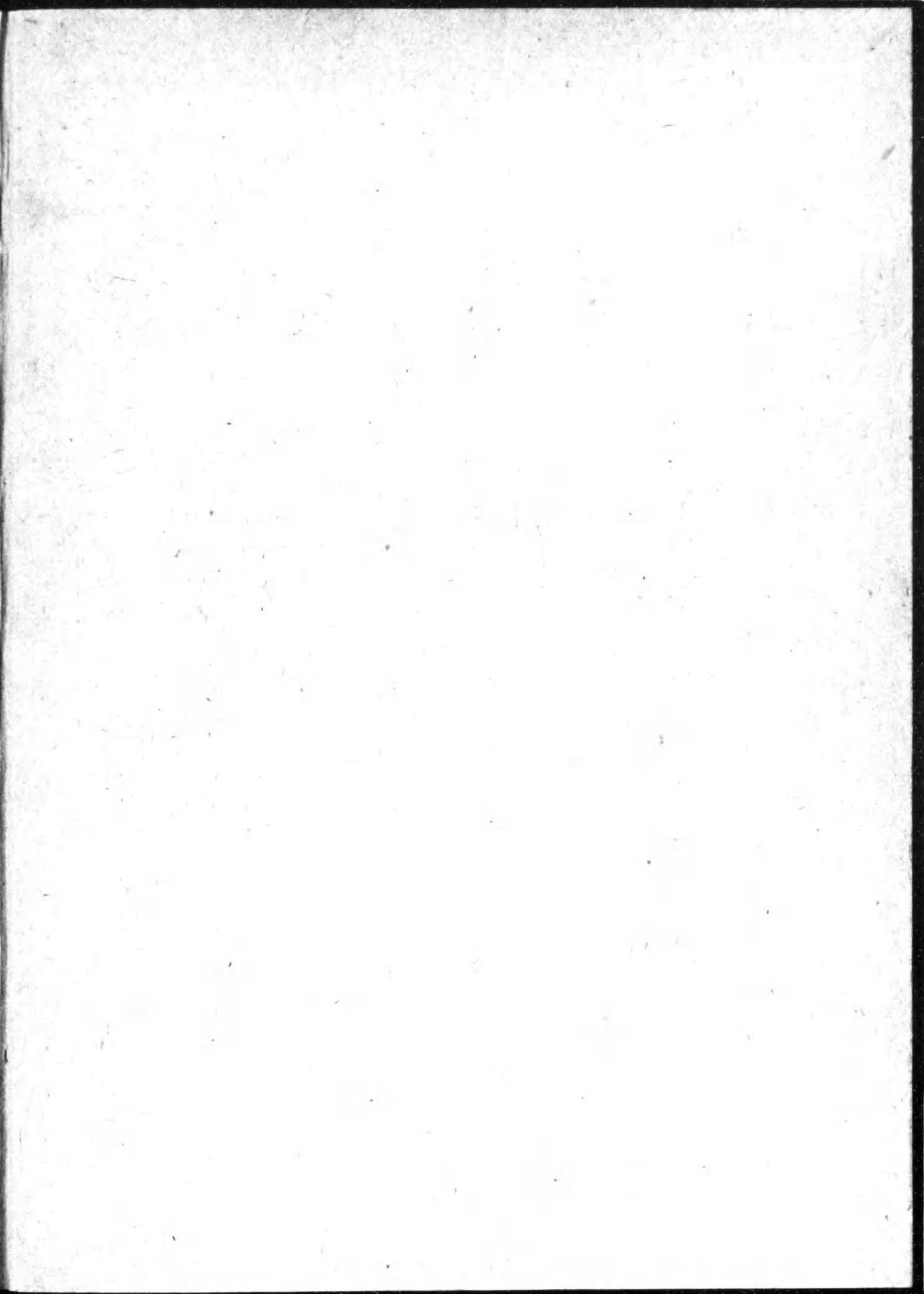
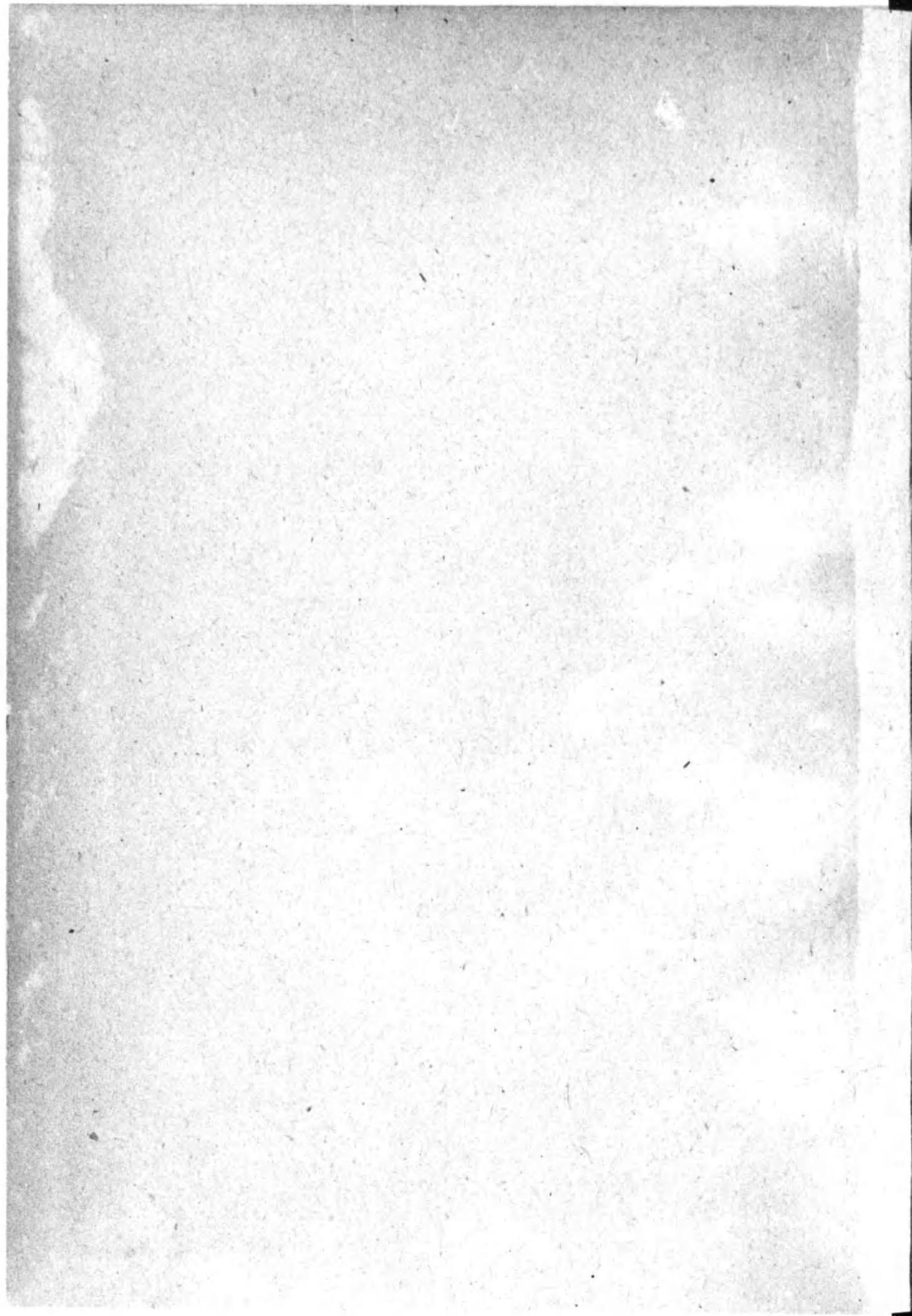
3/7
3/1

昭和
三年度
専賣局特別會計の概観

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5

始





昭和二十三年八月

昭和二十二年度專賣局特別會計の概観

專賣局

3
93

317
31



12846

昭和二十二年専賣局特別會計の概観

目次

序	一頁
第一 昭和二十二年本豫算	三
第二 補正第一號並第二號	五
第三 補正第三號	六
第四 補正第四號より第十號まで	三
第五 本豫算と補正豫算との通計	四
第六 益金の推移状況	五
第七 決算	四
むすび	三
統計目次	
第一表 最近十ヶ年間に一般會計歳入豫算額重要科目別比較表	一頁

第二表	期末豫定貸借對照表及損益計算書 (本豫算分)	六
第三表	煙草耕作段別、收納高、製造數量、賣渡高内譯表 (本豫算分)	七
第四表	耕作段別、收納高、製造數量、賣渡高、金額累年比較表	九
第五表	煙草製造並賣渡數量及代金豫定表 (補正第三號分)	九
第六表	期末豫定貸借對照表及損益計算書 (補正第三號による)	三
第七表	補正第六號による改定並に現行販賣計畫比較表	三
第八表	昭和二十二年豫算科目別通計表	二四
第九表	期末豫定貸借對照表及損益計算書 (通計豫算分)	二六
第十表	納付益金豫定額事業別内譯表 (通計豫算分)	二九
第十一表	昭和二十二年專賣局作業收支豫算對實蹟累月比較表	三〇
第十二表	昭和二十二年煙草販賣計畫對實蹟比較表 (三月末現在)	三三
第十三表	「新生」販賣實蹟累月比較表	三三
第十四表	昭和二十二年專賣局益金調 (決算による)	三四
第十五表	昭和二十二年專賣局益金事業別内譯表	三六
第十六表	昭和二十二年專賣益金豫算對實蹟調	三七

第十七表	昭和二十二年度貸借對照表及損益計算書	四〇
第十八表	專賣事業重要統計豫算對實蹟比較表	四三

昭和二十二年度專賣局特別會計の概観

序

昭和二十二年度における専賣事業は財政の面から頓に重要性を増すに至つた。即ちインフレーションの進行によつて國家の財政支出は急激に増加して來るのに對し、之に見合うべき財源は容易に増加を示さず、特に直接税についてこの傾向が強いため間接税的財源、就中専賣益金が注目的となつて來るのは止むを得ないところである。戦前から戦時を通じ、更に昭和二十一年度迄を見ると、専賣益金の一般會計歳入に寄與した割合は大體七―八%であるのに二十二年度は一舉に二四%にはね上つてゐる。一般會計歳入に對する専賣益金の地位を數字的に見ると、第一表の通りである。

第一表 最近十ヶ年間一般會計歳入豫算額重要科目別比較表(單位百萬圓)

年度	科目	租税、印紙收入	官業官有財産收入(専賣益金)	公債收入	その他	計
昭和十二年度		一、四〇〇	三三七	八三七	三五〇	二、九二五
同 十三年度		一、九〇五	三六九	一、〇〇八	二二九	三、五三三
同 十四年度		二、三三八	三六九	一、七六六	三六一	四、八三七
同 十五年度		三、一七一	四七四	一、九〇七	四六五	六、一七七
同 十六年度		四、〇〇七	五五七	三、〇〇四	六四三	八、二一一

年度	科目	租税、印紙収入	官業官有財産収入(専賣益金)	公債金収入	その他
同十七年度		五九三	八九	一五八	六九八
同十八年度		七七八	一四〇	三五九	一六七八
同十九年度		一〇九二	二〇五	六〇九	二二五八
同二十年度		一三六六	二七〇	一一四七	二九二五
同二十一年度		二六三六	九〇三	三四五〇	四九四六
同二十二年度		三五四三	五四〇〇	〇	三三九三
	右百分比(%)		(五二・六五)		三四・五六
昭和十二年		四八・〇	一一・六	二八・四	一一・〇
同十三年		五四・一	一〇・五	二八・七	六・四
同十四年		四八・三	八・一	三四・一	九・五
同十五年		五三・五	七・八	三一・二	六・五
同十六年		四八・八	八・八	三六・六	七・八
同十七年		六五・九	九・二	一七・〇	七・九
同十八年		五三・九	九・九	二四・五	一一・七

同十九年度	五一・七	九・五	(六・八)	二八・七	一〇・一
同二十年	四七・〇	九・四	(七・三)	三九・三	四・三
同二十一年	二二・二	七・六	(六・四)	二八・九	四一・三
同二十二年	六三・三	二五・六	(二三・九)	〇	一一・二

この小冊子は二十二年度においてかくも巨額に達した専賣局特別會計豫算の内容並に事業の概要を明かにせんとするものである。

二十二年度は年度の中途に於て物價賃銀水準が大幅に引上げられ、之に對應して歳入歳出も大幅に修正を受けたので、本豫算に比し相當巨額な補正豫算が組まれた。従つて以下に於ては本豫算と補正豫算とを順を追つて説明し、しかる後本豫算と補正豫算とを通算した豫算の概観を試み、最後に決算と豫算との對照をして見ることとする。

第一 昭和二十二年本豫算

一、豫算編成方針

豫算編成方針(昭二二、一〇、二四閣議決定)として歳入の第一項に「財源の培養を考慮しつつ歳入全般に亘り徹底的検討を加えその増收を圖ること」と定められておりその具體的方法の一つとして「専賣事業の

改良擴充を圖りその収入を増加すること」が謳われているのは最近の財政苦悶を表現すると同時に專賣局特別會計に對して大いなる期待を寄せるものである。

この本豫算は昭和二十二年三月三十一日公布された。

二、歳入歳出及び益金

本豫算の專賣局特別會計の收支は次の通りである。

歳入	二八、六四八、五六六、〇〇〇圓
歳出	七、五九一、七八九、〇〇〇圓
● 剰餘	二一、〇五六、七七七、〇〇〇圓

この他に

収入未済翌年度へ繰越豫定額	四一四、三五四、〇〇〇圓
固定資産増加額	二八四、五八九、〇〇〇圓
作業資産増加額	九〇二、二八〇、〇〇〇圓
合計（一般會計へ納付すべき益金）	二二、六五八、〇〇〇、〇〇〇圓
右の歳入の大部分は作業収入であつて、その大宗は	
煙草賣拂代	二四、九九七、六〇〇、〇〇〇圓

鹽賣拂代	三、三二七、二二九、〇〇〇圓
------	----------------

その他若干の巻紙、苦汁、樟腦の賣拂代及び雜收入が豫定されている。

（備考）本會計における雜收入とは左の如きものである。

恩給法納金、犯則者納金、辨償及違約金、小切手支拂未済金收入、受託治療收入等である。

歳出は本會計が事業官廳たる特色よりして作業費中

原材料料費	二、〇六二、八六八、五九二圓
商品費	一、三〇〇、五六八、五三〇圓
煙草	三、六五六、〇五九、〇〇〇圓
鹽	三、八三一、九一一、〇〇〇圓
樟腦	一〇三、八一九、〇〇〇圓

が計上されており役務費、補助負擔金及交付金、給料、賃金、諸支出金等が之に次いでいる。その他三億圓の豫備費が計上されている。事業別に歳出を分類すると

となつている。

以上の數字を基礎として作成された期末豫定貸借對照表並に損益計算書は次の如くである。

第二表
期末豫定貸借對照表(本豫算分、單位圓)

借 方		貸 方	
固定資産	357,829,789	固有資本	83,240,789
土 地	25,713,431	前年度事業 益金未納付額	76,164,800
建物その他	332,116,358	純 益 金	22,581,835,200
作業資産	1,932,851,198		
原 材 料	1,547,628,089		
商 品	385,223,109		
流動資産	20,450,559,802		
賣掛債權	414,354,000		
國庫金	20,036,205,802		
合 計	22,741,240,789	合 計	22,741,240,789

豫定損益計算書(本豫算分、單位圓)

損失の部		利益の部	
事業總經費	3,795,043,310	賣渡差益	26,333,785,010
總支出	7,591,789,000	專賣品 總賣拂代	28,940,468,200
(差引) 固定資産に 對する支出	287,782,500	(差引) 同上原價	2,606,683,190
運轉資産に 對する支出	3,508,963,190	雜 收 入	46,287,000
減價償却費	3,193,500		
純 益 金	22,581,835,200		
合 計	26,380,072,010	合 計	26,380,072,010

三、事業計畫

本豫算に照應する事業計畫として豫定されているものは次の如くである。

(1) 煙 草

第三表

煙草耕作段別、收納高、製造數量、賣渡高内譯表(本豫算分)

(イ) 葉煙草耕作段別、收納高

種 類	耕作段別	收納高	一段當
在 來 種	二四、四八〇 _町	三七、九四四 _{千石}	一五五 _担
黃 色 種	一一、三三二	一七、五九三	一四三
白 色 種	三、一八八	四、四六三	一四〇
計	四〇、〇〇〇	六〇、〇〇〇	一五〇

(ロ) 煙草製造數量

種 類

製造數量

口 付(朝日)	六〇〇 _{百圓本}
コ ー ナ	一、一〇〇

種 類	切 兩				口 付(朝日)	數量	定價(十本に付)	金 額
	金	朝	光	ビ				
計	金	朝	光	ビ	六〇〇	三、〇〇〇	一六五、六〇〇、〇〇〇	
刻 (みのり)	計	日	ス	ナ	一、二〇〇	三、〇〇〇	三、五六四、〇〇〇、〇〇〇	
手巻刻(のぞみ)	計	日	ス	ナ	四、〇〇〇	三、〇〇〇	一一、八八〇、〇〇〇、〇〇〇	
合 計	計	日	ス	ナ	一、一〇〇	四、〇〇〇	四〇四、八〇〇、〇〇〇	
(ハ) 煙草賣渡高	計	日	ス	ナ	二〇〇	三、〇〇〇	五五、二〇〇、〇〇〇	

種 類	金 額	
	計	金 額
刻 (みのり)	一七、二〇〇	三、九七二、〇〇〇、〇〇〇
手巻刻(のぞみ)	一四、五〇〇	一九、八七六、〇〇〇、〇〇〇
合 計	五一、〇〇〇	二、二八〇、〇〇〇、〇〇〇

最近十年間における煙草耕作面積、收納高、製造數量、賣渡高、金額を比較すれば次の如くである。(左に十二年度豫算として掲げた數字は補正豫算分を含まない。)

年 次	葉 煙 草		製造數量	賣 煙 草	金 額
	耕作段別	收納高			
昭和十三年度	三七、三五五	六二、三五、六二〇	六五、六五九	六二、六七	三六、三三七
同 十四年度	四三、四八七	八四、五七、四三〇	七二、四二一	六六、七三三	四三、一三七
同 十五年度	四八、四七六	九五、五五、九七一	七五、五二六	七〇、九七七	五〇、八〇八
同 十六年度	四六、四九六	八二、五四、三〇三	七九、八二五	七二、二五五	五七、三三一

同十七年度	四、六五〇	八四、二六、五〇	八、一〇、五四	七三、二六	七五、六四八
同十八年度	四、七九二	八四、四、六三	八、二、五三	七三、七四	一、七、七六四
同十九年度	三、一六四	六四、六〇、三九一	六、三、八四	六四、二九七	一、四、七、四九三
同二十年度	三、二四七	三六、〇六、一三九	三、五、六九二	三、一〇、一一	一、三、七、一九四
同二十一年度	三、八元	二八、〇三、〇四七	四、六、四三七	四、七、三九	八、七、三、八六四
同二十二年(豫算)	四、〇〇〇	六〇、〇〇〇、〇〇〇	五、一、〇〇〇	五、一、〇〇〇	二、四、九、七、六〇〇
同二十二年(實績)	四、三四一	五、七、三、一〇〇〇	四、七、六、九	四、七、二、七一	四、五、二、四、五〇〇

二十二年における耕作面積が前年度に比して飛躍的に増大しているのは政府の奨励政策の他に農民の農業恐慌に對する見越し、流通秩序の回復への傾向が興つて力あるものと考えられる。

煙草製造は年間五一〇億本を製造する豫定であるが、製造數量の増加と品質改善のためには戦災工場の復舊を急速に實施する必要があるので、本年度においては名古屋(製造能力三、〇〇〇百萬本)、岡山(二、〇〇〇百萬本)、濱松(二、〇〇〇百萬本)の三工場、水戸地方局管内に再乾燥場一(豫定數量三百萬疋)を新設し、又煙草用機械の製作を行つていた板橋製作所を新しい規模で復舊すること、なつてゐる。

本年度の煙草賣渡豫定數量五一〇億本のうち自由販賣煙草は、五二億本配給煙草は四五八億本であつて家庭

配給は三三六億本特別配給が一三二億本豫定されている。賣上高は自由販賣煙草一五、四四四百萬圓配給煙草九、五五三百萬圓である。

以上の事業計畫による煙草專賣益金は次の如くである。

事業収入	二五、二〇七、七八六、〇〇〇
專賣品賣渡代	二五、一九二、四〇五、〇〇〇
雑収入	一五、三八一、〇〇〇
經費	三、六五六、〇五九、〇〇〇
固定資産増價額	二七四、九二四、〇〇〇
作業資産増價額	六七二、一三〇、〇〇〇
差引純益金	一一、四九八、七八一、〇〇〇

(2) 鹽
二十二年鹽需給計畫は次の如くである。

種別	種
收納、生産、 受入及輸入	賣渡
(收納鹽)	六九四、二〇〇、

委託再製鹽	五〇、〇〇〇	七一九、五六二
國內鹽	四八、五〇〇	
政府製造鹽		
計	七九二、七〇〇	

輸入鹽	七〇〇、〇〇〇	五三〇、四三八
合計	一、四九二、七〇〇	一、二五〇、〇〇〇

右の需給計畫に基き、商品費（鹽の收納、購買代金）として支出される金額は

項目	數量	應當金額	總金額
内地鹽	六九四、二〇〇	一、九三二	一、三四一、八二〇、六九〇
輸入鹽	七〇〇、〇〇〇	一、二二二	八五四、七〇〇、〇〇〇
總計			二、一九六、五二〇、六九〇

でその他の作業費、諸支出金、豫備費を加えると
鹽專賣經費（歲出）
三、八三一、九二一、〇〇〇
となる。

之に對し事業収入は
數量 應當金額 總金額

鹽賣拂代	内地鹽	七一九、五六二	三、六六五	二、六三七、四七九、三九四
	輸入鹽	五三〇、四三八	一、九一六	一、〇一六、五九七、九六六
雜收入その他				一四、九四六、八四〇
總計				三、六六九、〇二四、二〇〇

であつてそれに
固定資産増價額 九、四八八、〇〇〇
運轉資産増價額 一、三三一、五九二、〇〇〇
を加えると

差引純益金	七八、一九三、二〇〇
前年度純益金本年度繰越納付額	六六、九五八、八〇〇
納付益金	一四五、一五二、〇〇〇

である、従つて納付益金は次の通りである。

(3) 樟腦

樟腦はいうまでもなく戦前においては日本の特産品であつて世界總需要一、〇〇〇萬疋の六割を賄つていた。

殘餘の四割は獨逸の合成樟腦その他で充されていた。臺灣の喪失が我國樟腦事業の運営上大きな痛手となつたことは否定出来ないが尙年産二五〇萬担程度を維持してゆくことは可能である。本年度における樟腦收納高及び補償金は豫算上

樟腦	收・納高	(一担に付) 補償價格	收納金額
樟腦油	一、二〇〇、〇〇〇 _円	三〇 _円	三六、〇〇〇、〇〇〇 _円
樟腦賣拂代の豫算は	一、八〇〇、〇〇〇	三〇	五四、〇〇〇、〇〇〇

樟腦	賣拂數量	單價	賣拂金額
改乙	一、三四八、〇〇〇 _円	百担當り 四、〇五〇 _円	五四、五九四、〇〇〇 _円
乙	七六八、〇〇〇	三、三〇〇	二五、三四四、〇〇〇
計	二、一一六、〇〇〇		七九、九三八、〇〇〇

であつて純益金及び納付益金は次の如くである。

事業収入	一〇九、九四五、〇〇〇 _円
專賣品賣渡高	七九、九三八、〇〇〇
雑収入	三〇、〇〇七、〇〇〇

經費	一〇三、八一九、〇〇〇
固定資産増價額	一七七、〇〇〇
運轉資産増價額	一、四四二、〇〇〇
差引純益金	四、八六一、〇〇〇
前年度益金未納付額	九、二〇六、〇〇〇
差引納付益金	一四、〇六七、〇〇〇

第二 補正第一號並第二號

補正第一號は七月物價體系の改訂に伴い政府職員に對する給與水準が一、六〇〇圓ベースから一、八〇〇圓ベースに引上げられ、七、八、九月分の差額を支給するため次の科目區分に從つて二千七百萬圓が追加された。財源としては二十二年歳入超過額が豫定されている。

專賣局作業費	
諸支出金	
給與特別措置費	二七、一五三、〇〇〇 _円

補正第二號は補正第一號に對する年度内（自十月至三月）の差額追給分として六千萬圓を追加し同時に同額の豫備費を修正減少した。

追加額	修正減少額	差引額
給與特別措置費 六一、九七五、〇〇〇 ^円	〇	六一、九七五、〇〇〇 ^円
豫備費 〇	六一、九七五、〇〇〇 ^円	△六一、九七五、〇〇〇 ^円

第三 補正第三號

四月以來施行されて來た補正豫算は經濟緊急對策に基く新物價體系の實施その他一聯の經濟政策の必要に迫られ全面的改定を餘儀なくされるに至つた。第一回國會に補正第三號として上程されたものである。歳入面においては極力収入の増收をはかるため増税、新税の創設、專賣價格の引上げが豫算編成方針とされており專賣局特別會計豫算もこゝに大きな使命を荷わされることとなつた。

補正第三號が專賣益金の源泉として期待しているのは云うまでもなく煙草益金である。二五〇億圓に達する益金を確保すると同時に物價騰貴を防止し賃銀ベースの維持を可能ならしめんがため配給價格は据置きとするが配給數量一ヶ月男子二二〇本女子三三〇本であつたのを男女共一月五〇本とし、之によつて浮いた製造能力を「新生」の製造に振り向け、又「光」(配給品)の製造を中止して「ピース」に振替えると共に自由販賣品の「ビ

ース」(「コロナ」)を十一月一日から十本當り三十圓から五十圓に引上げ右の増收をはからんとするものである。補正第三號の歳入歳出の概要は次の如きものである。

歳入	追加額	新製造煙草の發賣價格改正によつて	二八、四六九、九六八、〇〇〇圓
		樟腦の價格改正によつて	一一一、四四六、〇〇〇圓
		改乙 百疋	一二、三三四圓(舊四、〇五〇圓)
		乙 百疋	八、八四一圓(舊三、三〇〇圓)
		鹹水賣拂代	七三、七〇六、〇〇〇圓
		雜收 入(樟腦副産物賣拂價格改正)	四八、一〇九、〇〇〇圓
		修正減少額 鹽等の賣拂數量の減少	△六二二、六一五、〇〇〇圓
		(備考) 本豫算當時の賣渡豫定量	補正豫算による豫定量
		内地鹽	七一九、五六二 ^ト
		輸入鹽	五三〇、四三八
總計			二八、〇八一、六一四、〇〇〇圓
歳出	追加額	煙草、樟腦の價格改正に必要な經費	一、八七七、七四六、〇〇〇圓
		鐵道運賃並びに郵便料金の改正及び物價高騰に必要な經費	一、七二六、五二一、〇〇〇圓

專賣取締を強化するために必要な経費

職員の給与改善に必要な経費

豫備費

修正減

鹽及び苦汁購買數量の減少のため

(備考)

本豫算當時の政府購入豫定量

修正豫算による豫定量

内地鹽	六九四、二〇〇
輸入鹽	七〇〇、〇〇〇

八八五、〇〇〇

既定經費の節約(一〇月一四日閣議決定に基くもの)

六一、九四二、〇〇〇圓

總計

四、三一五、〇六四、〇〇〇圓

先にも述べた如く補正第三號は經濟界の變動に即應して專賣局の豫算を修正するのみならず、巨額の益金を燃出するものであつた。

これによつて生じた事業別納付益金の變化を本豫算分と比較對照すれば次の通りである。

昭和二十二年事業別專賣納付益金調

本豫算分	補正第三號	合計	
煙草專賣	二二、四九八、七八一、〇〇〇 _円	二六、六七三、〇〇一、〇〇〇 _円	四九、一七一、七八二、〇〇〇 _円

鹽專賣

一四五、一五二、〇〇〇

△七七一、六二二、〇〇〇

△五六六、四六九、〇〇〇

樟腦專賣

一四、〇六七、〇〇〇

六二〇、〇〇〇

一四、六八七、〇〇〇

計

二二、六五八、〇〇〇、〇〇〇

二五、九六二、〇〇〇、〇〇〇

四八、六二〇、〇〇〇、〇〇〇

又煙草製造計畫並賣渡計畫及代金は次の如く變更せられた。

第五表 煙草製造並賣渡數量及代金豫定表(單位數量百萬本 代金千圓)

品名	本豫算分		改定分(補正三號による)		代金差引 増加額
	製造數量	賣渡數量	代金	製造數量	
コロナ	1,100	1,100	3,540,000	600	600
ビロ	4,000	4,000	11,840,000	6,700	6,800
新	0	0	0	5,450	4,100
光	1,100	1,100	4,448,000	860	1,363
朝	800	800	3,108,000	800	2,880
金	1,710	1,710	3,971,000	640	7,238
みのり	1,450	1,450	2,276,000	1,430	2,281,260
合計					6,160

第六表
 期末予定貸借対照表
 (補正第三號による、單位圓)

借方		貸方	
固定資産	536,720,789	固有資本	83,240,789
土地	29,713,431	前年度事業益 金未納付額	76,164,800
建物その他	507,007,358	純益金	48,543,835,200
作業資産	3,976,563,198		
原材料	3,447,476,089		
商品	529,087,109		
流動資産	44,189,956,802		
賣掛債權	414,354,000		
國庫金	43,775,602,802		
合計	48,703,240,789	合計	48,703,240,789

豫定損益計算書
 (補正第三號による、單位圓)

損失の部		利益の部	
事業總經費	6,271,037,162	賣渡差益	54,723,669,862
總支出	11,934,006,000	專賣品 總賣拂代	56,973,973,200
(差引) 固定資産に 對する支出	466,673,500	(差引) 同上原價	2,250,303,338
運轉資産に 對する支出	5,196,295,338	雜收入	94,396,000
減價償却費	3,193,500		
純益金	48,543,835,200		
合計	54,818,065,862	合計	54,818,065,862

この度の補正豫算で豫定された追加益金は二五、九六二百萬圓であつてこれに本豫算分を合せると四八、五四
 三百萬圓に達する。

補正第三號による補正の結果を期末予定貸借対照表並に豫定損益計算書で示せば左の通りである。

の	111100	111100	111100000	111100	1111100	11111100	11111100	11111100
計	51000	51000	24997000	50000	50511	5347568	2646996	

第四 補正第四號より第十號まで

(i) 補正第四號

北海道所在官署に在勤する政府職員に對して石炭手当を支給するため手当及給與金において八六萬圓を追加し同額の豫備費を修正減少する。

(ii) 補正第五號

政府職員に對する一ヶ月分生活補給金として特別一時手当を支給するため五五、一一七千圓を手當及給與金として追加し同額の豫備費を修正減少する。

(iii) 補正第六號

官公廳職員に對する二・八ヶ月分生活補給金の一ヶ月分財源として從來配給品であつた「光」の在庫品を自由販賣品に振替へ、又配給品の價格引上げによつて二、六四五萬圓の益金を追加した。

第七表 補正六號による改定並に現行販賣計畫比較表

現行定價	改正定價	現行販賣計畫		改定販賣計畫		差引代金 増加額	
		數量	代金	數量	代金		
光	400	500	1,363	497,688	1,363	2,766,688	6,810,000
朝日	1,100	750	800	3,880	800	2,796,300	6,075,000

(數量 百萬本
代金 千圓)

金	1,150	600	7,316	1,368,400	7,316	1,368,400	0
みのり	1,100	500	1,4710	2,621,160	1,4710	3,654,160	9,710,000
のぞみ	1,100	500	1,4910	2,711,100	1,4910	3,551,700	9,315,000
計							2,645,250

又職員に特別一時手当(前記二・八ヶ月分の中一ヶ月分)を支給するため五五、一一七千圓を歳出豫算に追加し同額の豫備費を修正減少した。

(iv) 補正第七號 不成立

(v) 補正第八號

職員に特別一時手当(所謂〇・八ヶ月分)を支給するため四四、〇九四千圓を追加し同額の豫備費を修正減少した。

(vi) 補正第九號

專賣益金の確保を圖るため、製造煙草「新生」の賣上増進對策として福引券發行に必要な事務費等に充てるため

七四、四〇〇、〇〇〇圓
六〇、〇〇〇、〇〇〇圓

計 一三四、四〇〇、〇〇〇圓

二四

を追加し

同額の豫備費を修正減少した。

(vii) 補正第十號

勞働基準法の施行に伴う超過勤務手当を支給するため、手当及給與金並に給與特別措置費として二二〇、五三八千圓を追加し同額の豫備費を修正減少した。

第五 本豫算と補正豫算との通計

以上によつて二十二年本豫算並に補正豫算の内容を概観したわけであるが、それ等を通計して款項目別に區分すれば左の如くである。

第八表 昭和二十二年豫算科目別通計表

昭和二十二年度專賣局特別會計歳入

專賣局作業收入	五九、三七五、四三〇、〇〇〇 _円
作業收入	五九、二八一、〇三四、〇〇〇
1. 煙草賣拂代	五六、一二二、八一八、〇〇〇

2. 煙草用卷紙賣拂代	一九四、八〇五、〇〇〇
3. 鹽賣拂代	二、七〇七、五七五、〇〇〇
4. 苦汁賣拂代	一一、五二五、〇〇〇
5. 樟腦賣拂代	一八〇、六〇五、〇〇〇
6. 鹹水賣拂代	七三、七〇六、〇〇〇
雜收入	九四、三九六、〇〇〇
1. 恩給法納金	一二九、〇〇〇
2. 雜入	九四、二六七、〇〇〇

昭和二十二年度專賣局特別會計歳出

專賣局作業費	一一、一四四、一三二、〇〇〇 _円
(I) 作業費	一〇、二五九、五八七、〇〇〇
1. 官吏給	三〇、五八四、四〇〇
2. 給料	五一、六一二、三六〇
3. 手當及給與金	二〇、三九七、五三八
4. 賃金	一四四、〇〇五、〇三三

二五

5.	交際費	二七〇,〇〇〇
6.	報償費	四八,九一一,五一五
7.	旅費	六九,〇六七,六九三
8.	消耗品費	一二三,三三八,六九七
9.	役員務費	一,八五六,九七七,一五三
10.	備品費	八六,二〇〇,八四九
11.	原材料費	四,一五八,五五〇,五九二
12.	商品費	二,〇六二,一三一,五三〇
13.	施設費	五四七,三八〇,七四〇
14.	補助負擔金及交付金	一,〇〇〇,一五八,九〇〇
15.	貸付金	六〇,〇〇〇,〇〇〇
(II)	他會計へ繰入	一,六一〇,〇〇〇
	1. 他會計へ繰入	一,六一〇,〇〇〇
(III)	諸支出、金	八八二,九三五,〇〇〇
	1. 手當及給與金	三一四,五二八,〇〇〇

2.	賠償及償還金	三〇,〇〇〇
3.	補償金及補助金	四六,八一二,〇〇〇
4.	給與特別措置費	五二一,五六五,〇〇〇
豫備費		七八九,八七四,〇〇〇
殘額		四四八,五九〇,〇〇〇

〔備考〕 豫備費は本豫算三億圓、補正豫算一、〇六一、九七五千圓合計一、三六一、九七五千圓計上されてい
たが先に見た補正豫算の財源として振替えられた七八九、八七四千圓に修正減額された。その他
豫備費として使用された額は

- 五月一六日支出 四五、三六〇千円 (煙草、鹽配給統制及作業會計法改正關係經費)
 - 一二月二日支出 一九二、六六五 (葉煙草購入費)
 - 一月三〇日支出 一〇三、二五九 (東北水害、反別増加及防犯對策關係經費)
- であつて決算上四四八、五九〇千圓の殘額を示した。

右に通計された豫算に照應する貸借對照表、損益計算書は次の通りである。

第九表
期末豫定貸借対照表(通計豫算分、單位圓)

借方		貸方	
固定資産	536,720,789	固有資本	83,240,789
土地	29,713,431	前年度事業益 金未納付額	75,164,800
建物その他	507,007,358	純益金	51,189,085,200
作業資産	3,976,563,198		
原材料	3,447,476,089		
商品	529,087,109		
流動資産	46,835,206,802		
賣掛債權	414,354,000		
國庫金	46,420,852,802		
合計	51,348,490,789	合計	51,348,490,789

豫定損益計算書(通計豫算分、單位圓)

損失の部		利益の部	
事業總經費	6,271,037,162	賣渡差益	57,368,919,862
總支出	11,934,006,000	專賣品 總賣拂代	59,619,223,200
(差引)		(差引) 同上原價	2,250,303,338
固定資産に 對する支出	466,673,500	雜收入	94,396,000
作業資産に 對する支出	5,196,295,338		
減價償却費	3,193,500		
純益金	51,189,085,200		
合計	57,463,315,862	合計	57,463,315,862

右に見たように二十二年専賣益金豫定額は

事業益金 五二、一八九、〇八五、二〇〇圓
納付益金 五一、二六五、二五〇、〇〇〇圓

であつて事業別にこの内譯を見ると次の通りである。

第十表 納付益金豫定額事業別内譯表(通計豫算分)(單位千圓)

歳(事業收入)	煙草	鹽	樟腦	合計
歳入	五三、三〇四	三、二二五	二、九五〇	五九、七三九
歳出	七、七四二	四、三六五	三〇、九四四	四二、〇五一
差引歳入超過	四八、八八六	九、八五七	四、二三六	五九、八五九
固定資産増加額	四、八八八	一、四三〇	一〇、二七二	一六、五九〇
作業資産増加額	二、七一九	三、七三二	四、六六三	一〇、一八四
前年度益金未納付額	〇	六、九五九	九、二〇六	一六、一六五
差引益金	五、八七三	六、〇六八	一、四六七	一三、四〇八

第六 益金の推移状況

二十二年において一般會計に納付すべき益金は總額五一、二六五、二五〇千圓を計上されたが実績は豫定通

りにあがつていないのである。(次表参照)

第十一表 昭和二十二年専賣局作業收支豫算對実績月比較表 (單位 千圓)

月分	收		入		支		出		差引收入超過
	豫定	收入済額	増	減	本期分	本期迄	本期分	本期迄	
四	二,三六七,三六〇	一,八七二,三三六	△五,六一四	一,八七二,三三六	八五,五二八	八五,五二八	一,七八五,七七八	一,七八五,七七八	一,七八五,七七八
五	"	一,八五九,一八三	△五,八一七	三,七三〇,四一九	一五八,九三六	二,四四四,五四四	一,七〇〇,二四七	三,四八五,九六五	三,四八五,九六五
六	"	二,二二二,四九六	△一七,四八四	五,九四二,九二五	一八〇,〇五八	四,四四二,二	二,〇三三,四三八	五,五二八,四〇三	五,五二八,四〇三
七	"	三,二七三,四七一	八八六,〇九一	九,二六,三八六	六六八,五四五	一,〇九三,〇五七	二,六〇四,九六六	八,二二三,三九九	八,二二三,三九九
八	"	二,七五三,三七三	三,六五,九九三	一一,九六九,七五九	五五〇,七七二	一,六四三,八二八	二,一〇二,六〇二	一〇,三三五,九三二	一〇,三三五,九三二
九	"	一,六八六,二六二	△七〇,一一八	一三,六五六,〇二二	一一七,二八六	二,九一六,六三四	四,三三四,五六六	一〇,七三九,三八七	一〇,七三九,三八七
十	"	三,二五〇,五九〇	八六三,二一〇	一六,九六六,六一一	一,三七八,一〇三	四,三〇三,七七七	一,八六三,四八七	二二,六〇二,八七四	二二,六〇二,八七四
十一	八,〇〇三,七〇四	二,六七八,六四九	△五,三五〇,〇五五	一一,九五五,二六〇	一一〇,八九四	五,四一四,六三二	一,五六七,七五五	一四,一七〇,六六九	一四,一七〇,六六九
十二	"	三,四八二,二四四	△四,五二二,四六〇	二二,〇六七,五〇四	一,六六六,三四一	七,〇八〇,九七二	一,八二五,九〇三	一五,九八六,五三三	一五,九八六,五三三
一	八,八八五,四五四	五,三三六,七八〇	△三,五四八,六七四	二八,〇四一,八四四	二〇五,七六九	七,二六六,七四二	五,三三三,〇二一	二二,二七五,四三三	二二,二七五,四三三
二	"	五,二八九,七九八	△三,五九五,六五六	三三,六九四,〇八二	九九八,三七〇	八,二八五,一一一	四,二九一,四八八	二五,四〇八,九七一	二五,四〇八,九七一
三	"	七,三〇〇,四六六	△一,五七五,四〇八	四二,〇〇四,二八	一,八三七,七九三	一〇,一七九,九〇四	五,四七七,二四八	三〇,八八六,三三四	三〇,八八六,三三四

年度首以來十月迄即ち補正第三號提出までは大體豫定通りの益金を舉げていたのであるが十一月以降收入豫定月額が三倍以上に増大したにもかゝらず收入済額は十一月には却つて減少を示し十二月には幾分反撥しているが豫定の半分にも達しない状態である。

これが打開策としては

- (イ) 「新生」の福引券附賣出し
- (ロ) 監視機構の強化による闇煙草撲滅のため中央には煙草部に監視課を地方に監視部を新設する
- (ハ) 小賣人に對する割引歩合の引上
- (ニ) 煙草代金延納許可

等の具體的措置がとられた、め一月以降收入額は急上昇傾向を示したがそれでも豫定額には達していない。かゝる專賣益金不足の原因としては

- (イ) 補正豫算が最初は遅くとも八月中には通過するものと豫想されていたものが実際には十月の末頃になつて通過した、め補正第三號に盛られた巨額の益金を僅か五ヶ月で生み出すこと、なつて一ヶ月當りの負擔が過重となつたこと

(ロ) 煙草賣拂代總額が現在の國民所得に比し過大であつたこと
 (ハ) 煙草定價の引上が煙草の關取引を助長したこと
 (ニ) 電力不足により煙草製造數量が減少したこと
 等が考えられる。必需品の嗜好品として恰好の財源とせられた專賣益金に限界のあることが具體的に示されたわけである。

例えば煙草の賣渡計量と實蹟を比較して見ると次表の通りである。

第十二表 昭和二十二年度煙草販賣計畫對實蹟比較表(三月末現在) (單位 百萬圓)

(1) 數量	區分		實蹟	増△減	内延納分
	自由品	内譯			
	計	畫	實蹟	増△減	内延納分
	自由品	計 畫	實蹟	増△減	内延納分
		一、七六〇	九、三三三	△ 二、五七三	一、五八六
	内譯	七、四二〇	六、五五一	△ 八五九	一、〇八〇
	新光	一、五〇〇	一、五	△ 一五	一八
	新生	四、二〇〇	二、五〇六	△ 一、六九四	四八八
	配給品	三、八七一	三、八八二	△ 八七	
	その他		零	零	
	合計	五〇、五三二	四七、七七一	△ 三、八六〇	

(2) 代金	區分		計 畫	實蹟	増△減	内延納分
	自由品	内譯				
	自由品	計 畫	實蹟	増△減	内延納分	
		四六、四四四	三五、五五七	△ 一〇、八八七	七、〇九六	
	内譯	二九、二四五	二五、二五三	△ 三、九九三		
	新光	七三五	八〇七	△ 三二		
	新生	一六、四四四	九、四九八	△ 六、九四五		
	配給品	九、六六八	九、六五四	△ 一四		
	その他		六八	六八		
	合計	五六、二三	四九、二四三	△ 一〇、九八九		

又煙草賣行不振の最も大きな項目たる新生について月別販賣實蹟を見ると次表の通りである。

第十三表 「新生」販賣實蹟累月比較表

月別	數量	代金	備考
十一	一、七	一、七	1. 一二二年度販賣豫定量は四二億本である

十二	二五	一,〇三三	2. 二月以降福引券附で販賣された數量は約一八億七千萬本で總販賣量の七四%に達した
一	二〇一	七六一	3. 三月販賣實蹟のうち延納によるものが四億八千七百萬本である
二	四五六	一,七九〇	
三	一,四一一	五,一〇一	
計	二,五三三	九,四九六	

鹽については内地の生産不振により收納は豫定に達せず従つて商品費(賠償金)の支出も豫算額に達しなかつた。他方輸入鹽の輸入が八九六千吨であつたので鹽專賣の益金は本豫算に於て一四五百萬圓であつたのが補正豫算によつて五六六百萬圓の赤字となり實蹟は五〇〇百萬圓の赤字となつた。

第七 決算

一三年度決算の概略は次の通りである。

第十四表 昭和二十二年專賣局益金調(決算による)

歳入の収入済額	四一,〇〇四,一二七,九四八
歳入の収入未済額	七,七二八,五八三,五一四
前年度支出未済額	三一,六八二,五八六

翌年度へ繰越物品價格 四、四三六、五三〇、〇六五(固定資産及び作業資産)

歳入の計	五三、二〇〇、九二四、一一三
歳出の支出済額	一〇、一一七、九〇三、六二五
歳出の支出未済額	一七八、九四五、三八七
前年度収入未済額	九、五六六、八一六
前年度より繰越價格	一、一〇一、九七八、四九一(作業資産)
前年度より繰越價格	七八、七九七、五五四(固定資産(資本に相當する額))
減價償却費	九、〇八九、五一四
前年度現金不突合額	一、四九八、四一八(前年度益金納付のとき日本銀行において未精算のため生じたる不突合額)
前年度賣渡本年度納付額	八六、九九九、五四〇
支出の計	一一、五八四、七七九、一四五
專賣益金	四一、六一六、一四四、九六八
前年度未納額	八六、九九九、五四〇
納付益金	四一、七〇三、一四四、五〇八

右を事業別に分類すれば次の通りである。

第十五表 昭和二十二年度專賣局益金事業別内譯表(單位圓)

	煙草	鹽	樟腦
歳入の收入済額	三八七、七三九、〇三三	二、九三三、九七九	五〇〇、一九二、八六六
歳入の收入未済額	七、二六五、二六三、四八六	四四八、四二八、七七七	一一四、九〇一、四五二
前年度支出未済額	四、五四〇、五六七	二七、二八、九八五	一三、〇三四
翌年度へ繰越物品の價格	四〇、一五、七五三、〇六一	二、三四、五三〇、三三七	一八六、一四六、六八六
計	四九、九四七、二九六、一四八	二、九〇二、四四七、六〇八	三五二、一八〇、三五七
歳出の支出済額	六、四三三、四〇四、九八〇	三、三三〇、八三六、五二二	三五三、六六二、二四
歳出の支出未済額	五〇、〇八八、一〇八	二、七、一八八、三三七	一、六五八、九六一
前年度收入未済額	四、七〇〇、五〇八	一、〇七、三三七	四、六五八、九八一
前年度より繰越物品の價格	一、〇二八、五九八、三三七	四四、九八六、五八九	二八、三三三、六五五
前年度より繰越物品の價格 (作業資産)	七〇、一九六、〇一五	八、二四一、四〇二	三六〇、一三七
減價償却費 (固定資産)	七、九九八、五九七	九九八、八四	九〇、八九三
前年度現金不突合額	一、四九八、四二八	〇	〇

前年度賣渡本年度納付額

計

前年度賣渡本年度納付額	二、七三〇	八、二三四、三三〇	四、六〇一、五〇〇
計	七、五九六、四八七、五九三	三、五九四、八六四、一九〇	三、九三、四七二、二六二
專賣益金	四、三三〇、八〇八、五五五	六、九二四、二六六、八二二	四、二四六、九九五
前年度未納額	二、七三〇	八、二三四、三三〇	四、六〇一、五〇〇
納付益金	四、三三〇、八〇八、五五五	六、九二四、二六六、八二二	四、二四六、九九五

次に歳入歳出の主要科目につき豫算と決算とを對照すれば次表の通りである。

第十六表 昭和二十二年專賣益金豫算對實蹟調

	豫算額	決算額	差引増減
(歳入) 事業收入	五九、七三三、六一九、二〇〇	四八、六六六、一四五、一〇五	▲一一、〇六七、四四〇、九九五
葉煙草賣拂代	〇	三、一四七、五〇〇	▲三、一四七、五〇〇
製造煙草賣拂代	五六、二二八、八〇〇	四五、一四三、三三三、六〇六	▲一〇、九九九、四五四、三九四
煙草用巻紙賣拂代	一九四、八〇五、〇〇〇	一〇〇、六五四、四四〇	▲九四、一五〇、五六〇
鹽賣拂代	三、〇三四、四三三、三六〇	二、五四九、三三八、二七二	▲四八五、一九五、〇八八
苦汁賣拂代	二、二〇八、八四〇	四七二、五二三	▲一、七三六、三一七
計	一、一〇一、七八六、四四〇	七〇、九八二、一〇五	▲一、〇三〇、八〇四、三三五

かん水賣拂代	七三,七六,〇〇〇	六七,四,五七四	六六,九,一四六
樟腦賣拂代	一九,一八四,〇〇〇	一〇,一八五,八五〇	八八,五五八,一五〇
雑収入	九四,三九六,〇〇〇	七〇,四六八,三五〇	六〇,六〇七,三五〇
歳出	二,九三四,〇〇六,〇〇〇	一〇,二七五,七五四,一五七	一,六五八,二五二,八四三
原材料費	四,一五八,五〇,五九二	四,〇四三,五四一,四九四	一,一五,〇〇九,〇九八
葉煙草購入費	三,二〇六,八六〇,六〇〇	三,六五五,〇七四,九四九	四四八,二四三,四九九
煙草用巻紙購入費	二七三,四五四,六六一	一一五,四四四,七四五	一五八,〇二〇,七二七
煙草製造用材料購入費	四七七,六五二,五三〇	二五二,〇三〇,五七四	三三三,六二二,九五六
かん水購入費	二〇〇,五九二,〇〇〇	二二,〇一一,三六	一七九,五八〇,七四四
商品費	二,〇六一,三三,五三〇	一,七三三,八五三,三七五	三三九,二七八,一五五
鹽	一,七六四,六六〇,六九〇	一,三九六,五〇九,三八一	三六八,二五二,三〇九
苦汁	一一〇,八六八,四〇〇	三,一四四,六四五	八,九四二,二九五
樟腦	一〇八,一三四,〇〇〇	二四,五五五,三九九	六,三三一,三九九
樟腦油	一七,一七〇,〇〇〇	一四八,八三六,八七九	二八,三三三,二二
製造煙草	〇	六九,八〇七,三二	六九,八〇七,三二

施設費	五四七,一八〇,七四〇	四八四,三六四,八五四	六三,〇二五,八八六
固定資産購入新設等経費	五四七,三八〇,七四〇	四八四,三六四,八五四	六三,〇二五,八八六
人件費	一,一五四,一六四,八〇四	一,〇九三,九九九,九九五	六〇,一九四,八〇九
回送費	一,三三六,〇七,六〇六	一,一八七,七三九,七八四	一四〇,一八七,八三二
その他経費	二,六八三,七五〇,七二八	一,七三三,六九六,九二四	九六二,〇五三,八〇四
減價償却費	〇	九,〇八九,三四	九,〇八九,三四
現金補填額	〇	一,四九八,四一七	一,四九八,四一七
差引△損益	四七,七七九,六三,一〇〇	三八,三六〇,三九〇,九四八	九,四一九,三二,一五二
固定資産増△減額	四六三,四八〇,〇〇〇	五〇六,四五五,七八〇	四二,九七五,七八〇
作業資産増△減額	二,九四五,九九二,〇〇〇	二,七四九,一九八,二四〇	一九六,六九三,七六〇
差引純益金	五二,一八九,〇八五,一〇〇	四二,六一六,一四四,九六八	九,五七二,九四〇,一三四
前年度未納額	七六,一六四,八〇〇	八六,九九九,五四〇	一〇,八三四,七四〇
本年度納付益金	五二,二五二,五〇,〇〇〇	四二,七〇三,二四四,五〇八	九,五六二,一〇五,四九二

次に貸借対照表と損益計算書を掲げる。

昭和22年度損益計算書(單位圓)

損夫の部		利益の部	
經 費	6,098,841,933	生産品受入	2,537,557,730
製造經費	2,829,075,606	賣渡差益	44,548,456,818
事業經費	3,269,766,327	價格改定増	376,968,745
賣渡差損	104,180,191	雜 益	1,066,206,512
減價償却費	9,089,314		
價格改定減	6,382,448		
雜 損	694,550,951		
益 金	41,616,144,968		
合 計	48,529,189,805	合 計	48,529,189,805

第十七表
昭和22年度貸借對照表(單位圓)

借 方		貸 方	
固定資産	585,253,334	固有資本	88,797,555
土 地	44,582,809	固定資本	78,797,555
建 物	186,229,043	据置運轉 資 本	10,000,000
工 作 物	27,629,325	減價償却 引當金	9,089,314
機械器具	276,184,621	前年度益金 未納額	86,999,541
船 舶	268,329	未 拂 金	178,945,387
未成工事	50,413,707	益 金	41,616,144,968
作業資産	3,851,276,732		
葉 煙 草	2,805,210,320		
鹽	196,694,627		
樟 腦	109,834,241		
樟 腦 油	62,012,044		
材 料 品	143,628,618		
製造煙草	449,758,930		
煙草用卷紙	73,548,471		
苦 汁	778		
鹹 水	10,588,643		
流動資産	37,543,446,699		
延 納 金	7,667,693,191		
未 收 金	60,890,323		
國 庫 金	29,814,863,185		
合 計	41,979,976,765	合 計	41,979,976,765

他方一般會計決算見込額は

歳入 豫算額	一一四、二五六 <small>百圓</small>
收入 見込額	一一四、一三六
比較増・減	一一〇
歳出 豫算額	一一四、二五六
支出 見込額	二〇五、五六五
不用 見込額	八、六九一

であつて一般會計歳入における専賣益金の比重は豫算と決算において次の如く變化している。

豫算	一般會計歳入(A)	専賣益金(B)	B/A
算	一一四、二五六 <small>百圓</small>	五一、二六五	一一三・九三%
決	一一四、一三六	四一、七〇三	一九・四八%

右の納付益金四一、七〇三、一四四、五〇六圓は五月三十一日一般會計へ納付されたが二二年度末専賣局特別會計國庫金現在額は二八、八九六、二二三、九〇四圓で差引一一、八〇六、九二〇、六〇二圓の現金不足を生じたわけである。専賣局及び印刷局特別會計法第六條第一項に基き、昭和二二年度において一時借入金をなし又は融通證券を發行することが出来る金額は二十三年度暫定豫算補正特第一號によつて一三〇億圓とされたが特第二號

によつて五億圓増額して一三五億圓と定められた。

前記一一、八〇六、九二〇、六〇二圓の國庫金不足は一般會計國庫餘裕金より四五億圓繰替受入れ昭和二二年度専賣局特別會計現金より残りの八、三〇六、九二〇、六〇二圓を使用することによつて補填した。

むすび

五一二億圓を豫定した専賣益金は煙草の賣行不振が主たる原因となつて結局四一七億圓となつたが、この四一七億圓の益金とても、実際には年度末に延納で賣渡した煙草の賣渡代金七一億圓を差引いて考えるべきであらう。しかし一應この數字をとつて見ると、一般會計の財源に對する専賣益金の割合は約二〇%となり豫算における二四%に比し若干パーセンテージを減じている。

本年度における事業の推移を主要部門について見るに次表の通りである。

第十八表 専賣事業重要統計豫算對実績比較表

豫算	段別	葉煙草耕作反別、收納高、賠償金	收納高	賠償金	一底當賠償金	收量	賠償金
		40,000 <small>百圓</small>	10,000,000 <small>圓</small>	3,106,800 <small>圓</small>	5,447 <small>百圓</small>		
四三							

實 績 四二四二 五七三二〇〇〇 三六三、二七六九 六三、五三 四四 八、六九

(二) 煙草製造數量、賣渡數量及金額

實 績	製造數量	賣渡數量	金額
豫 算	五〇、〇〇〇 <small>百圓本</small>	五〇、五三一 <small>百圓本</small>	五六、一二二、八一八 <small>千圓</small>
實 績	四七、六九九	四七、一七一	四五、一四一、五八〇

(三) 鹽買入賣渡數量

實 績	政府購入數量	賣渡數量
豫 算	國內鹽 輸入鹽 二五〇、〇〇〇	國內鹽 輸入鹽 三〇〇、〇〇〇
實 績	九八、〇〇〇	七六、七六八
	八九六、〇〇〇	七六六、五九一

(四) 樟 腦

實 績	收 納	賣 渡 數 量
豫 算	樟 腦 一、〇〇〇、〇〇〇 <small>圓</small>	樟 腦 乙 改 乙 六三〇、〇〇〇 <small>圓</small>
實 績	一、二五三、一一四	五一八、四五〇
	一、四八〇、〇〇〇 <small>圓</small>	七二四、四〇〇
	一、四九〇、二七六	

葉煙草收納については耕作反別は計畫を上廻つた。收納量目は相當の減少を見ているのに賠償金は豫算以上となつてゐる。結局反當量目は一五〇匁の豫定に對し一三七匁、反當賠償金は八、〇一八圓の豫定に對し八、六九五圓となつてゐる。

次に煙草製造數量は豫定に比し五%近い減となつてゐる。煙草賣渡は五六一億圓の豫定に對し實績は四五一億圓で一〇億圓の減となつてゐる。しかも前述の如く四五一億圓の賣渡實績は七一億圓の延納代金を含んでゐる。この賣渡減が本年度專賣益金減の最大原因である。

鹽の收納は本豫算では六九萬噸と豫定したが配炭配電事情の悪化に伴い、補正第三號においては二五萬噸に減額したが實際の收納は九八千噸に過ぎなかつた。輸入は豫定よりやゝ上廻つた。

鹽の賣渡數量は内地鹽は收納減により當然減少したが、鹽入鹽は大體豫定通りであつた。併し一般物價改定に伴う單價の引上が行い得なかつたため本豫算において若干鹽專賣益金を計上していたにもかゝらず補正第三號の結果鹽專賣事業は赤字となるの止むなきに至つた。

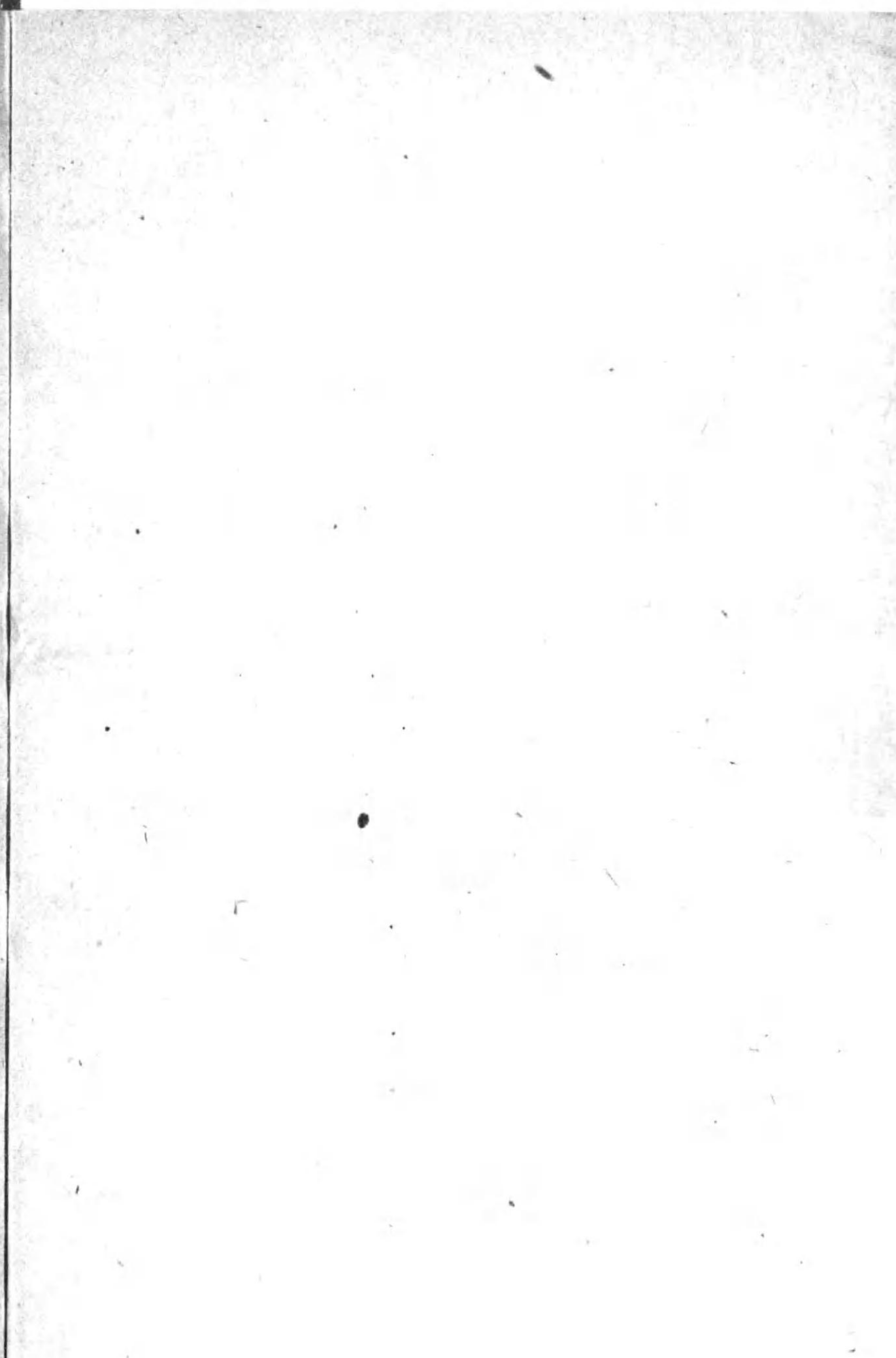
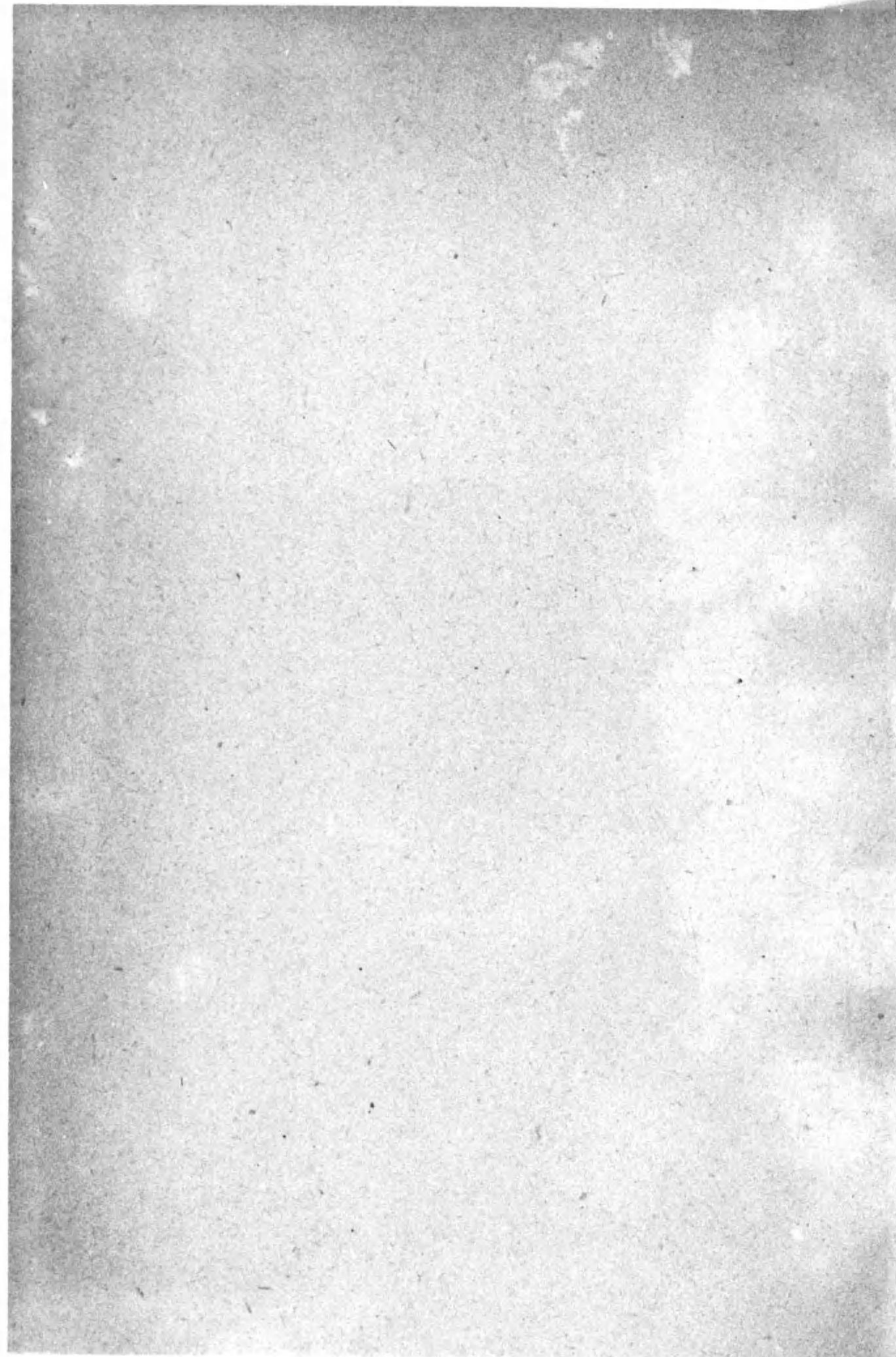
樟腦の收納は大體豫定通りであつたが賣渡はセルロイド工業方面の需要關係により豫定通りに行かなかつた。

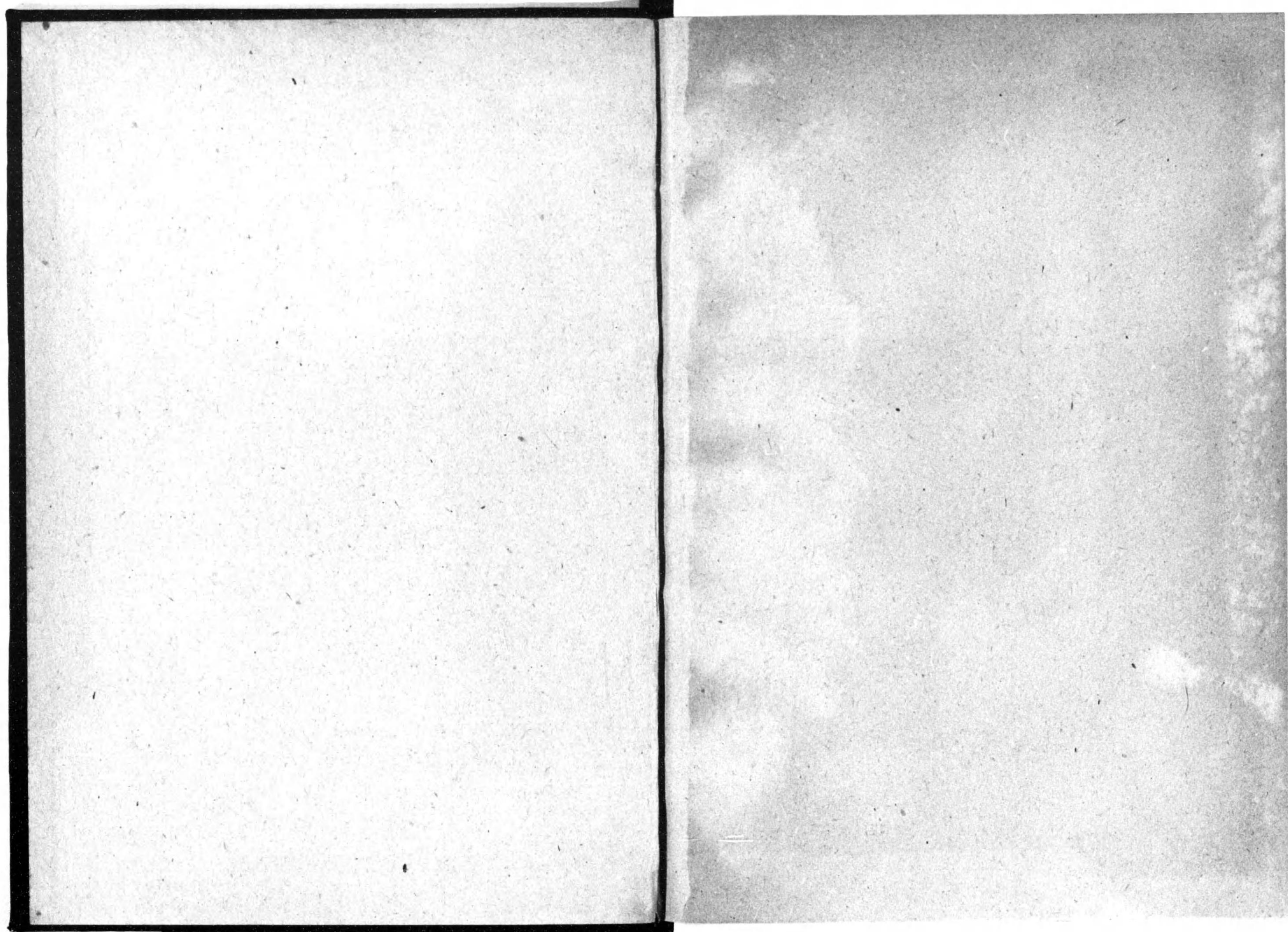
歳出は總額一一九億圓の豫算に對し決算は一〇二億圓で差引一六億圓の不用額が出た。

この不用額を生じた原因としては豫備費の不用額四四八百萬圓、鹽賠償金三六八百萬圓減、煙草製造用材料費二二五百萬圓減、かん水購入費一七九百萬圓減等が主なる原因である。

以上を通じて見るに従來豫算額と決算額との開きが極めて小さいのを常とした專賣局特別會計も、本年度は幾多の條件に左右されて、豫算額と決算額とは大きな開きを示したのであるが、國內の政治經濟狀勢が次第に安定に赴くに從いこの開きを徐々に縮小するよう努力することが望ましい。

昭和二十二年度賣賣局特別會計の概観（おわり）





終